

シニアのICT利用に関するライフスタイル・アプローチ（２）

— 類型化されたシニアの社会的分布とICT利用 —

飽戸 弘¹ 栗原 一浩² ○吉良 文夫² 松本 健太郎² 栗原 俊介² 水野 一成²

¹東京大学名誉教授 ²NTTドコモ モバイル社会研究所

1. はじめに

モバイル社会研究所ではケータイ・スマホが社会生活に与える影響^[1-5]について継続的に調査を行ってきた。今回筆者らは、シニア世代の生活^[6,7]をより豊かにするために必要とされること、ICTが貢献し得ることは何かを探るため、首都圏（1都6県）在住の60～79歳の男女を対象に、生活に関するアンケート調査を実施した。本報告の第一部では、多様なライフスタイルを有するシニアを「日々の活動」と「ICTの利用による人間関係への影響」という2つの観点に着目して類型化を行った。第二部の本稿では、類型化されたシニアの各クラスターの社会的分布とICT利用について報告する。

2. アンケート結果から得られたシニアの特徴

先ず、今回調査で対象となったシニアについて得られた全般的な特徴を表1に示す。経済的ゆとりについては、5割強のシニアが“有”と回答しており、時間的ゆとりでは7割強のシニアが“有”と回答している。健康状態については9割弱が“良い”と回答している。ICTデバイス利用については、約9割のシニアがケータイ、スマホ(タブレット型を含む)、PCのいずれかを月に1回以上利用しており、3割弱のシニアはスマホを利用していることが確認できた。今回の調査では12項目のICTサービスの利用状況と利用意向について設問している。4割以上のシニアが利用していた電子メール、情報検索、品物注文、災害情報の4つを“基本的サービス”と定義し、これら以外の8つのサービス（投資、災害情報、動画・音楽、写真・ビデオカメラ、健康、SNS、ホームセキュリティ、仕事紹介、安否確認）を“応用サービス”と定義し、これらの利用の有無をシニアのICT利活用の状況を測る目安とした。その結果、ICTデバイスを利用していても電子メールや情報検索等の基本的なサービスを利用していないシニアが一定数存在していることが明らかとなった。

表1：シニア全体の特徴（n=530）

性別	男:49.4%、女:50.6%
年代	60代:54.7%、70代:45.3%
経済的ゆとり	有(ゆとりがある・多少ゆとりがある):54.6% 無(ゆとりがない・あまりゆとりがない):45.4%
時間的ゆとり	有(ゆとりがある・多少ゆとりがある):74.9% 無(ゆとりがない・あまりゆとりがない):25.1%
健康状態	良い(健康である・まあ健康である):86.0% 良くない(健康でない・あまり健康でない):14.0%
ICTデバイス利用状況	ケータイ:68.3%、スマホ:28.1%、PC:45.5% ※上記3つの端末のいずれかを利用:87.4%
ICTサービス*利用のタイプ	応用サービス利用(応用的サービスを利用):35.7% 基本サービス利用(基本的サービスのみ利用):37.7% 非ICT利用(基本的サービス・応用的サービスともに利用なし):26.6%

※ ICTサービスの設問項目「 a.電子メールの送受信、b.情報(分からない言葉・地図・交通情報・天気予報・ニュース等)の検索、c.テレビ・インターネットを見て品物を注文し、配達されるサービス、d.株や信託などの投資ができるサービス、e.地震や津波などの災害情報を知らせてくれるサービス、f.動画や音楽などを視聴できるサービス、g.インターネットを使って、写真やビデオカメラを簡単に送ることができるサービス、h.健康(運動や食事など)に関連したアドバイスを受けることができるサービス、i.SNSの更新や発信(コメントや写真をアップするなど)、j.外出時など自宅の家電のスイッチや鍵の開け閉め等を確認できるサービス、k.経験や能力、条件に見合った仕事を紹介してくれるサービス、l.人が倒れた人の動きがない等の異常時に警備員がかけつけ、安否を確認できるサービス 」

3. 日々の活動に着目して類型化されたシニアの特徴

表2は、日々の活動に着目して類型化された4つのクラスタ（日々の活動クラスタ）の特徴をまとめたものである。表中の記載は各々の設問項目において回答数の多いものを抽出してあり、今回調査の対象となったシニア全体の平均的な回答結果に対する相対的な特徴を示している。なお、参考までに有意水準が5%に満たないまでも傾向が認められる項目については括弧付きの文字で示している。以下、各クラスタの特徴を順に説明する。

「地域で活躍」のクラスタは、基本属性の項目として際立った特徴は無いが、男の比率が少し高く、健康状態は良い傾向がある。ICT利用の項目に着目すると、ケータイやPCの利用者が多いという特徴があり、基本サービス利用タイプが多い傾向がある。ICTサービスの利用・利用意向については4クラスタ中最も積極的であり、他のクラスタと比較して特に回答が多い項目は写真・ビデオカメラと情報検索であった。

「仲間・家族中心」は、60代の比率が高く、有職者が多い傾向がある。ケータイ利用者が少ない傾向があり、ICTサービス利用のタイプについては応用サービス利用が多い傾向がある。

「消極派」は、男の比率が高い。経済的にも時間的にもゆとりが無く、健康状態が良くないという特徴がある。ICTデバイスの利用が特に少ないわけでは無いが、非ICT利用のタイプが際立って多いという特徴がある。ICTサービスの利用・利用意向は殆どの項目について4クラスタ中で最も低かったが、仕事紹介に関しては他のクラスタより高かった。

「教室で生き生き」は、女の比率が際立って高い。仕事に就いていない人が多く、経済的・時間的ゆとりは“有”との回答が多い傾向がある。PC利用者が少ない傾向があり、ICTサービスの利用・利用意向についても全体的に少し低めであった。

表2：日々の活動クラスタでの相対的特徴 (n=514)

		地域で活躍	仲間・家族中心	消極派	教室で生き生き
基本属性	性別	(男)		男**	女***
	年代		60代*		(70代)
	経済的ゆとり			無***	(有)
	時間的ゆとり			無*	(有)
	健康状態	(良い)		良くない** ※	
	仕事		(有職)		無職*
ICT利用属性	ケータイ利用	多い*	(少ない)		
	スマホ利用				
	PC利用	多い*			(少ない)
	ICTサービス利用のタイプ	(基本が多い)	(応用が多い)	非ICTが多い***	
	利用・利用意向の高いICTサービス 《》の数字は一人あたりの平均選択数	写真・ビデオカメラ* 情報検索* (健康アドバイス) (災害情報) 《 6.4 》	(電子メール) 《 5.9 》	(仕事紹介) 《 5.4 》	《 5.8 》

※ 良くない との回答が他クラスタよりも相対的に多いことを意図しており、健康状態の良くないシニアが大きな割合を占めているわけではない。

*** p > .001; ** p > .01; * p > .05

4. ICTの利用による人間関係への影響に着目して類型化されたシニアの特徴

表3は、ICTの利用による人間関係への影響に着目して類型化された4つのクラスタ（人間関係クラスタ）の特徴をまとめたものである。表中の記載は各々の設問項目において回答数の多いものを抽出しており、シニア全体の平均的な回答結果に対する相対的な特徴を示している。なお、参考までに有意水準が5%に満たないまでも傾向が認められる項目については括弧付きの文字で示している。

人間関係クラスタは、先に説明した日々の活動クラスタと比べて、基本属性の項目については全体的にクラスタ毎の差異は小さくなっている印象を受けるが、ICT利用属性の項目についてはクラスタ毎の差異が大きく表れる結果となった。

「消極型」は、男の比率が特に高いクラスタである。時間的ゆとりは少なく健康状態は良くないという傾向がある。ICT利用の項目に着目すると、ケータイ利用者が多く、スマホ利用が少ないという特徴がある。ICTサービスの利用・利用意向は人間関係クラスタの中では最も低く、高い値を示す項目は無かった。ICT利用について消極型と対照的なクラスタが次に説明する双方型である。

「双方型」はスマホ利用者が多いという特徴があり、ICTサービス利用のタイプについては応用サービス利用が多い。ICTサービスの利用・利用意向についても非常に積極的であり、殆どの項目で高い値を示した。基本属性に着目すると経済的ゆとりが有り、健康状態が良いという傾向がある。

「深化型」と「広がり型」はICT利用について際立った特性を示すものではないが、「広がり型」の方が「深化型」よりもICTサービスの利用・利用意向について積極的である。なお、「深化型」は女の比率が高く、PC利用者が少ないという特徴がある。

表3：人間関係クラスタでの相対的特徴 (n=445)

		消極型	深化型	広がり型	双方型
基本属性	性別	男***	女**		(男)
	年代				
	経済的ゆとり				有*
	時間的ゆとり	(無)	(有)		
	健康状態	(良くない)			(良い)
	仕事				
ICT利用属性	ケータイ利用	多い*	(少ない)		
	スマホ利用	少ない**			多い**
	PC利用		少ない*		
	ICTサービス利用のタイプ	(基本が多い)			応用が多い*
	利用・利用意向の高いICTサービス			(ホームセキュリティ) (仕事紹介) (写真・ビデオター)	ホームセキュリティ** 情報検索** SNS更新・発信* 動画・音楽視聴* 電子メール* (仕事紹介) (健康アドバイス)
《》の数字は一人あたりの平均選択数	《 5.9 》	《 6.2 》	《 7.0 》	《 7.4 》	

*** p > .001; ** p > .01; * p > .05

5. 考察

ライフスタイルに基づくシニア世代の類型化を行った結果、日々の活動に着目して類型化した場合も ICT の利用による人間関係への影響に着目して類型化した場合も共に ICT 利活用に関して積極的なクラスタ（「地域で活躍」、「双方型」）と消極的なクラスタ（「消極派」「消極型」）が抽出された。「地域で活躍」は自治会・町内会・老人会や奉仕・ボランティア等の地域活動に積極的なクラスタであり、「双方型」は ICT の利用による人間関係への影響（深化・広がり）に対して肯定的なクラスタである。地域活動への参加あるいは ICT による人間関係への影響について意識が高いシニアは、ICT 利活用に関して積極的なシニアが多いという結果となった。これら 4 つのクラスタにおいて特筆すべきは男の比率が高くなっていることである。また、健康状態や経済状況の良し悪しと、ICT 利用に積極的か消極的かは無関係では無いことがうかがえる結果となっている。

日々の活動に関する他のクラスタでは、「教室で生き生き」は女の比率が高く、時間的にも経済的にもゆとりがあり活動的な人が多いと考えられるが ICT 利用・利用意向について高い値を示すものは無かった。「仲間・家族中心」は最も多くのシニアが属し、60 代が多いクラスタである。（シニアとしては）若い世代が多く、今後更に ICT 利活用が広がる可能性が高いクラスタと思われる。

人間関係に関する他のクラスタでは、「深化型」は女の比率が高く、ICT 利用・利用意向について高い値を示すものは無かった。「広がり型」は基本属性に特徴的な項目は無いが、ICT 利用・利用意向については比較的高い値を示しており、ICT 利活用に関して積極的なシニア^[8]がある程度存在していることがうかがえる。

これらのことからシニアには様々なタイプが存在し、そのライフスタイルに応じたニーズを適切にとらえて働きかけることにより、シニア世代の ICT 利活用を効果的に後押し、生活をより豊かにすることが可能と期待される。その一方で経済的・時間的なゆとりが少なく ICT サービスの利用に消極的なシニアが存在することも忘れてはならない。事業者としても行政等との連携を視野に入れて真剣に向き合っていく必要があると考えられる。類型化されたクラスタに属するそれぞれのシニアにおいて、生活をより豊かにするために必要とされていること、ICT が効果的に貢献できること、あるいは ICT 利活用を妨げている障壁などの洗い出しについては今後の研究課題としたい。

6. 参考文献

- [1] 飽戸 弘・向田愛子・野村滋郎(2011)「ケータイ・ライフスタイルの時系列的考察(1), (2), (3)」『日本行動計量学会 第 39 回大会抄録集』, 1-12
- [2] 飽戸 弘・遊橋裕泰・篠崎俊哉 (2012)「ケータイ利用と人間関係構造(1), (2)」『日本行動計量学会第 40 回大会抄録集』, 7-12
- [3] 飽戸 弘・他 (2013)「スマートフォン利用へのライフスタイルアプローチ(1), (2), (3)」『日本行動計量学会第 41 回大会抄録集』, 6-13
- [4] 飽戸 弘・尾仲秀敏・安孫子友祐(2014)「若者のケータイ利用に関するライフスタイル・アプローチ(1), (2)」『日本行動計量学会第 42 回大会抄録集』, 218-225
- [5] 飽戸 弘・他 (2015)「スマホ時代の動画利用に関するライフスタイル・アプローチ(1), (2)」『日本行動計量学会第 43 回大会抄録集』, 178-185
- [6] 橋元良明(2014)「シニアの情報行動と消費行動」『日経広告研究所報 278 号』, 44-49
- [7] 内閣府(2015)「平成 27 年度版高齢社会白書」
- [8] 林 香織(2015)「高齢者のメディア環境に関する基礎的研究 — 余暇活動との接点の構築 —」『江戸川大学紀要』(25), 229-236